特記仕様(構造関係)

Ⅰ　建物構造概要等

1. 建物概要

主要用途	学校	延べ面積	48.64　㎡
階　数	地上　3 階　地下　0 階	塔屋	0 階
建物高さ	12.00　m	軒高	11.55　m
工事種別	・新築　⊙増築　・改築　・移転		
増築計画	・有り　⊙無し		
構造種別	S造		
架構形式　X方向	ラーメン　構造		
架構形式　Y方向	ラーメン　構造		
耐震構造方式	⊙耐震構造　・免震構造　・制振構造		
耐震安全性の分類	・Ⅰ類（I=1.50）　・Ⅱ類（I=1.25）　⊙Ⅲ類（I=1.00）		

2. 構造計算条件

a　耐震設計条件

地震荷重	建物一次固有周期		（ 0.347 ）秒：
	地盤種別		第（ Ⅱ ）種地盤
	地域係数		Z=1.0
計算ルート	X方向		※ 許容応力度計算（　）
			⊙その他　ルート3：保有水平耐力計算
	Y方向		※ 許容応力度計算（　）
			⊙その他　ルート3：保有水平耐力計算
設計層間変形角	X方向	一次設計	1/150
		二次設計	1/120
	Y方向	一次設計	1/150
		二次設計	1/120

b　耐風設計条件

基準風速　(V0)	30 m/秒
地表面粗度区分	・Ⅰ　・Ⅱ　⊗Ⅲ　・Ⅳ

c　耐積雪設計条件

建設地の標高	（ 441 ）m
多雪区域の指定	・有り　⊙無し
設計垂直積雪量	（ 80 ）cm

Ⅱ　建築工事仕様(構造関係)

1．共通仕様

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書・同監理指針（建築工事編）（平成 28 年版）」（以下、「標仕」という）による。

2．特記仕様

（1）項目は、番号に⊙印の付いたものを適用する。
（2）特記事項は、⊙ 印の付いたものを適用する。
　⊙ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
　⊙ 印と ⊗ 印の付いた場合は、共に適用する。
（3）特記事項に記載の（　　）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4）G 印は「国等による環境物品等の調達等の推進に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。なお、特定調達品目か否かの判断基準は監督職員との協議による。

適用範囲

特記仕様(構造関係)の適用範囲は下記の工事種目とする。
※ 特記仕様書(1)　仕様書　1 工事概要　2 工事種目に掲げる下記の工事種目番号
（番号○～番号○までの工事種目）

④ 地業工事

① 支持力又は支持地盤の確認

支持地盤の位置及び種類　(4.3.4)(4.3.5)(4.5.4)
・杭基礎（基礎ぐいの先端の位置含む）
　・構造図(杭伏図)による
⊙直接基礎(基礎底部の位置含む)
　⊙構造図（　S-16　）による
　長期設計支持力度
　（ 400 ）kN/㎡
試験
杭の載荷試験　(4.2.1)(4.2.3)(4.2.5)
　⊙行わない
　・行う
　　・構造図(杭伏図)による　・
　・報告書の記載事項（　　）

地盤の載荷試験(平板載荷試験)　(4.2.4)(4.2.5)
　⊙行わない
　・行う（1箇所）
　載荷荷重等仕様(施工時現場責任者と協議の上決定)
　　・構造図（ S-13 ）による
　・報告書の記載事項（　　）

② 液状化対策

・行う（工法、施工範囲、仕様及び計測、試験等は構造図による。）
⊙行わない

3　既製コンクリート杭地業

種類等　(4.1.2)
・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭・PRC杭)
・外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭)
　SC杭の鋼管材料
　・STK400　・　STK490
材料
寸法、継手、性能等(杭伏図による)　(4.1.2)

	杭径 (mm)		杭長(m)及び種類等			セット数	コンクリート強度(N/mm²)	長期設計支持力(kN/本)	備考
			種類の記号	板厚(mm)	杭長(m)				
試験杭									
本杭									

試験杭　(4.2.2)(4.3.4)
　試験杭の位置、本数及び寸法
　・構造図（杭伏図）による　・
杭先端部形状　(4.1.2)
　・開放形　・半開放形　⊙閉そく形　・
施工方法　(4.3.3~4.3.5)
　・セメントミルク工法　(4.3.4)
　　アースオーガーの支持地盤への掘削深さ
　　・1.5m程度
　　・　　
　　杭の支持地盤への根入れ深さ
　　・1.0m以上　・
　　杭の精度
　　・水平方向の位置ずれ
　　・杭径の1/4かつ100mm以下　・
　　・杭の傾斜
　　・1/100以内　・
　・特定埋込杭工法　(4.3.5)
　　・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
　　・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内、α、β、γが
　　下記の値を採用できる工法
　　α=（ 150 ）、β=（ 4NS+34　）、γ=（ 7NC+20 ）
　　工法
　　・プレボーリング拡大根固め工法
　　・中掘り拡大根固め工法
　　杭周固定液
　　・使用する　・使用しない
　　杭の精度　(4.3.5)
　　・水平方向の位置ずれ
　　・杭径の1/4かつ100mm以下　・
　　・杭の傾斜
　　・1/100以内　・評定条件又は認定条件による　・

杭継手工法　(4.3.6)
　・アーク溶接継手
　・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
　　工法
　　※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法　・
　　検査
　　※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目　・
　　施工
　　※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による　・

杭頭の処理(切断方法)　(4.3.7)
　・処理しない（機械式杭頭接合工法とする）
　・処理する
　　切断方法
　　・構造図(　　)による　・
　　杭頭の中詰め材料
　　・基礎のコンクリートと同調合のもの　・

4　鋼杭地業

材料
寸法、継手、性能等　(4.4.2)(表4.4.1)

	杭径 (mm)		杭長(m)及び種類等			セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
			種類の記号	板厚(mm)	杭長(m)			

試験杭　(4.2.2)(4.4.3)
　試験杭の位置、本数及び寸法
　・構造図(　　)による　・
杭先端部形状　(4.4.2)
　・開放形　・
施工方法
　・特定埋込杭工法　(4.4.4)
　　・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
　　・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内、α、β、γが
　　下記の値を採用できる工法
　　α=（　）、β=（　）、γ=（　）
　　工法
　　・中掘り拡大根固め工法
　　・ATTコラム工法（認定番号TACP−0167）
　　杭の精度　(4.3.5)
　　・水平方向の位置ずれ
　　⊙杭径の1/4かつ70mm以下　・
　　・杭の傾斜
　　⊙/100以内　・評定条件又は認定条件による　・
杭の現場継手　(4.4.5)
　・アーク溶接継手
　・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
　　工法
　　※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法　・
　　検査
　　※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目　・
　　施工
　　※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による　・
杭頭の処理(切断方法)　(4.4.6)
　⊙切断しない
　・切断する
　　切断方法
　　・構造図(　　)による　・
　　杭頭の中詰め材料
　　・基礎のコンクリートと同調合のもの　・

5　場所打ちコンクリート杭地業

セメントの種類　(4.5.3)
　・高炉セメントB種　G　・
コンクリートの種別　(4.5.3)(表4.5.1)
　・A種　・B種
コンクリートの設計基準強度　（　　）N/mm²　(4.5.3)
構造体強度補正値(S)　(4.5.3)
　※ 3N/mm²　・　N/mm²
杭断面・長期許容支持力等

	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭						
本杭						

試験杭　(4.5.3)
　試験杭の位置、本数及び寸法
　　・構造図(　　)による　・
　掘削工法　(4.5.1)(4.5.4)(4.5.5)
　　・アースドリル工法　(安定液　・使用する　・使用しない)
　　・リバース工法
　　・オールケーシング工法　(孔内の水張り　・行う　・行わない)
併用する工法　(4.5.1)(4.5.5)
　・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
　　鋼管巻き材料
　　・SKK400　・SKK490　・STK400　・STK490
　　鋼管径、板厚、長さ等
　　・構造図(　　)による　・
　・拡底杭工法（安定液　・使用する　・使用しない）
帯筋　(4.5.3)
　・構造関係共通図(配筋標準図)5.2帯筋(b)(3)⑥丸形(ロ)による
　・構造図(　　)による
鉄筋かごの補強　(4.5.3)
　・杭径1.5m以下の場合は鎹板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鎹板9×50~75(mm)の補強
　　リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、リングと組立用の鉄筋との
　　接触部を溶接する。
鉄筋の最小かぶり厚さ　(4.5.3)
　・100mm　・
鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ　(4.5.3)
　・構造図(　　)による
孔壁測定　(4.5.4)
　・行わない
　・行う
　　測定方法
　　・超音波測定器　・
　　測定箇所数及び測定位置
　　・試験杭(　)箇所及び本杭(　)箇所とし、位置は構造図(　　)による
杭の精度　(4.5.4)(4.5.5)
　水平方向の位置ずれ
　　・100mm以下　・
　杭の傾斜
　　・1/100以内　・評定条件又は認定条件による　・

6　砂利地業

材料　(4.6.3)
　※ 再生クラッシャラン G　・ 切込み砂利及び切込み砕石
厚さ及び適用範囲

厚さ	適用箇所
・ 60	・基礎スラブ下　・基礎梁下　・土間コンクリート下　・土に接するスラブ下
⊙ 100	⊙基礎スラブ下　⊙基礎梁下　・土間コンクリート下　・土に接するスラブ下 ・地下ピット床下

7　捨コンクリート地業

厚さ及び適用範囲　(6.14.3)

厚さ	適用箇所
⊗50	⊙基礎梁下　⊙土に接するスラブ下
※ 100	・基礎スラブ下

8　床下防湿層

施工範囲　(4.6.5)
　・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)・
防湿工法　(4.6.5)
　・ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・
防湿層の位置　(4.6.5)
　・図面（ 意匠図 ）による

9　地盤改良
（セメント系固化材を用いた工法による改良）

工法
　・浅層混合処理工法
　　改良範囲、仕様(計測、試験等含む。)は構造図(　　)による。
　・深層混合処理工法
　　改良範囲、仕様(計測、試験等含む。)は構造図(　　)による。
　⊙ 認定工法(特記仕様書　S-13参照)

10　置換コンクリート地業（ラップルコンクリート地業）

形状等
　・構造図(　　)による　・
支持地盤の長期設計支持力
　（　　）kN/㎡
支持地盤
　・構造図(　　)による　・
型枠使用の有無
　・無し　・有り　(型枠の使用箇所等は構造図S−○○による)

⑤ 鉄筋工事

① 鉄筋の種類　(5.2.1)(表5.2.1)

規格の名称	種類の記号	呼び径(mm)	適用箇所	備考
鉄筋コンクリート用棒鋼（異形鉄筋）	⊙SD295A	※ D16以下	床・壁・基礎　等	
	⊙SD345	※ D19~D25	柱・梁・基礎　等	
	・SD390	※ D29		

2　溶接金網

形状等　(5.2.2)

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	適用箇所
・ 溶接金網			デッキプレート上
・ 鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手

継手方法　(5.3.4)

適用箇所	継手方法と適用径の範囲
・ 柱主筋	・ガス圧接(D19以上)　・
⊙ 梁主筋	⊙ガス圧接(D19以上)　・
・ 壁	・重ね継手　・
⊙ 基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁など	・ガス圧接(　　)
	⊙重ね継手(　　)
・ 杭主筋	・重ね継手　・

④ 主筋の継手位置等

カットオフ鉄筋の長さ　(5.3.4)
⊙関東地方整備局営繕部版 構造関係共通図(配筋標準図)（以下「配筋標準図」という）
　5.1、6.1、7.1、7.3による(・全て　・下記以外全て)
　・上記以外の位置
　　・構造図(　　) による
基礎梁主筋の継手
　・各部配筋参考図 1.3による
　・配筋標準図 図5.2による(・全て　・構造図による　・　　)
　・配筋標準図 図5.3による(・全て　・構造図による　・　　)
　・配筋標準図 図5.4による(・全て　・構造図による　・　　)
　⊙構造図(S−04)による

⑤ 定着長さ

柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さ　(5.3.4)(表5.3.4)
　※ 直線定着　・フックあり定着
上記以外の鉄筋の定着長さ
　※ 直線定着　・フックあり定着

⑥ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）

最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う)　(5.3.5)(表5.3.6)
　※ 表5.3.6 による
　⊙構造図（ S−03 ）による
柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無
　⊙無し　・有り　適用場所（　　）
　　主筋のかぶり厚さ
　　・最小かぶり厚さ(　　)mm
特殊な要求性能におけるコンクリートの部分(耐久性上不利な部分)
　⊙無し
　・有り　適用箇所(　　)
　　・配筋標準図 表4.1に加える厚さ　(　)mm

⑦ 各部配筋

⊙配筋標準図による。　(5.3.7)
・構造図(　　)による。
・各部配筋参考図による。

⑧ 帯筋

組立の形の種別
　⊙配筋標準図 6.2(　　H形)による
　・構造図(　　)による

9　壁開口部の補強

一般壁　・各部配筋参考図 2.2による
　　・配筋標準図 8.4(　　形)による
　　・構造図(　　)による
耐震壁　・構造図(　　)による

10　梁貫通孔の補強

補強形式
　・国交大臣認定品を用いる。
　・配筋標準図 11.2(H形)による
　・構造図(　　)による
梁貫通孔径(部材記号含む)及び配筋種別リスト
　・構造図(S−)による

⑪ 圧接完了後の試験

外観試験　※行う(全数)　(5.4.9)
抜取試験（第三者試験機関による）　(5.4.9)
　⊙超音波探傷試験
　　試験の箇所数等
　　⊙標仕 5.4.9、5.4.10による　・
　・引張試験
　　試験片の採取数は、1ロットに対して(※3本・5本)とする
　　試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする
　　試験片を採取した箇所の処置：標仕5.4.9による

12　特殊な鉄筋継手

適用箇所　(5.5.2)
　・構造図(　　)による　・
性能(H12建告第1463号に適合するもの)
　・A級　・
機械式継手の種類(　　)　(5.5.2)
カプラー等の接合部分の相互のあき、最小かぶり厚さ　(5.3.5)
　・構造図(　　) による　・
品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等　(5.5.2)
　・構造図(　　)による　・

H31.3.24 訂正

〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　℡.026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士 一級建築士登録第108578号　清水　勉　印
構造担当者　構造設計一級建築士 第7927号
一級建築士大臣登録番号 第204059号 春原 記明